

聖週間の典礼に関する補足事項

この資料は、現行『ミサ典礼書』には記載されていない聖週間の典礼に関する規則を、『ミサ典礼書』以外の典礼書や『ミサ典礼書』発行後に教皇庁から発表された指針などに基づいてまとめた補足事項で、本年 2 月 2 日に開催された常任司教委員会で承認されました。小教区などで聖週間の典礼を準備する際に参照してください。

2012 年 2 月 2 日

日本カトリック典礼委員会

1. 受難の主日（枝の主日）

- (1) 枝を持って入堂するとき、信者だけでなく司式者その他の奉仕者も枝を持つ¹。
- (2) 行列も盛儀の入堂も行うことができない場合、救い主の入城と受難に関することばの祭儀を、土曜日の夕刻か日曜日のふさわしい時刻に行うことが望ましい²。
- (3) 受難朗読を複数の奉仕者で行う場合、可能であればキリストのことばは司祭が朗読する。助祭が朗読する場合、通常の福音朗読と同じように朗読の前に司式者から祝福を受ける³。

2. 聖木曜日・聖香油のミサ

- (1) 聖香油のミサのために聖木曜日の午前中に集まることが難しい場合、復活祭より前の他の日に行うことができる。その場合、復活祭に近い日を選ぶ⁴。
- (2) 各小教区で、主の晩さんの夕べのミサの前、あるいはよりふさわしいと思われる他の機会に、聖なる油を受け取ったことを知らせることができる⁵。

3. 聖なる過越の 3 日間全般

- (1) 聖金曜日と聖土曜日には、「教会の祈り」の「読書」と「朝の祈り」を共同体の祭儀として行うことが勧められる。司教座教会では、可能であれば司教は聖職者と信者とともにこれらの祭儀に参加する⁶。
- (2) 聖なる過越の 3 日間の典礼のために、それぞれの役割に関して養成されたふさわしい数の奉仕者が必要である。また、信者が行動的に参加することができるよう、司牧者は祭儀

¹ 『司教儀典書』（*Caeremoniale Episcoporum*, editio typica, Libreria Editrice Vaticana, 1984 [Reimpressio emendata 2008]) 270、教皇庁典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」(Congregatio pro Culto Divino, Litterae circulares «de festis paschalibus praeparandis et celebrandis», 16 ian. 1988) 29 参照。

² 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第 3 版）』（*Missale Romanum*, editio typica tertia, Libreria Editrice Vaticana, 2002 [Reimpressio emendata 2008]) 「受難の主日」1、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」31 参照。

³ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第 3 版）』 「受難の主日」21、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」33 参照。

⁴ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第 3 版）』 「聖香油のミサ」3、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」35 参照。

⁵ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第 3 版）』 「聖香油のミサ」15、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」36 参照。

⁶ 『司教儀典書』 296、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」40、「教会の祈りの総則」210 参照。

の各部分の意味や順序について適切な方法で説明するようにする⁷。

(3)小さな共同体や会、さまざまな種類の特別のグループは、聖なる過越の3日間の祭儀をよりふさわしく祝うために、司教座教会や小教区聖堂などに集まって祭儀に参加することが望ましい⁸。

4. 聖木曜日・主の晩さんの夕べのミサ

(1)地区裁判権者は、夕刻のミサにどうしても参加できない人のために、必要があれば朝にこのミサを行う許可を与えることができる。その場合、このようなミサが個人や特定の小グループのために行われたり、夕べのミサより重んじられたりしないようにする⁹。

(2)このミサから復活徹夜祭までの間、オルガンと他の楽器は歌を支えるためだけに使用することができる¹⁰。

(3)聖体を安置するために、祈りと黙想に導くように場所を整える。あらゆる誤用を避けるために、これらの日々の典礼にふさわしい落ち着きが求められる¹¹。

(4)自宅などで拝領をする病者のために、聖体は助祭、祭壇奉仕者、または臨時の奉仕者によって、祭壇から直接運ばれることが望ましい¹²。

(5)聖体は扉を閉じた聖櫃または蓋をした聖体容器の中に安置される。顕示台を使用することはできない¹³。

(6)聖櫃または聖体容器を置く場所を、墓所のように整えることはできない。また、「墓」と呼ぶことも避ける¹⁴。

5. 聖金曜日・主の受難

(1)聖金曜日には、ゆるしの秘跡と病者の塗油の秘跡を除く他の秘跡を執り行うことはできない¹⁵。

(2)「教会の祈り」の「読書」と「朝の祈り」を信者とともに行うことが勧められる¹⁶。

(3)司牧的理由から主の受難の祭儀を午後3時より遅く行う場合も、午後9時以降には行わない¹⁷。

(4)主の受難の祭儀は沈黙のうちに始まるので、導入の言葉を述べる場合は司祭と奉仕者が

⁷ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』『聖なる過越の3日間』2、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」41参照。

⁸ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』『聖なる過越の3日間』3、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」43参照。

⁹ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』『主の晩さんの夕べのミサ』3、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」47参照。

¹⁰ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』『主の晩さんの夕べのミサ』7、「ローマ・ミサ典礼書の総則（暫定版）」313、『司教儀典書』300、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」50参照。

¹¹ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」49参照。

¹² 同53参照。

¹³ 同55参照。

¹⁴ 同55参照。

¹⁵ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』『聖金曜日』1、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」61参照。

¹⁶ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」62、「教会の祈りの総則」210参照。

¹⁷ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」63参照。

入堂する前に告げる¹⁸。

(5)受難の朗読は、受難の主日と同じようにする。短い説教の後、しばらく沈黙のうちに祈るよう会衆に勧めることができる¹⁹。

(6)「平和のあいさつ」は行わない²⁰。

(7)祭儀の後、祭壇の上のものを取り除くが、2本もしくは4本のろうそくとともに十字架を残す²¹。

6. 聖土曜日

(1)聖土曜日には、主の墓のもとにとどまって主の受難と死をしのび、主が陰府にくだったことを黙想し、主の復活に希望をおいて祈りと断食をする²²。

(2)「教会の祈り」の「読書」と「朝の祈り」を信者とともに行うことが勧められる²³。

7. 復活の主日・復活徹夜祭と日中のミサ

(1)復活徹夜祭は、各教会で1度だけ行われる。信者は何よりもこの徹夜祭の一つに集まり、教会共同体の意味を体験しなければならない²⁴。

(2)旧約聖書の7つの朗読は、可能な場合はどこにおいてもすべてを朗読することが求められる²⁵。司牧的理由で減らす場合、3つの朗読を律法と預言書から選ぶが、出エジプト記14章の朗読を省くことはできない²⁶。

(3)復活徹夜祭について案内する場合、聖土曜日を締めくくる時ではなく、復活祭の夜の祭儀であることに留意する²⁷。

(4)拝領前の信仰告白「神の小羊の食卓に招かれた者は幸い…」の前に、司式者は受洗者に、入信の秘跡の頂点でありキリスト教生活全体の中心となる初聖体の意味と大切さについて簡潔に説明することができる²⁸。

(5)日中のミサのとき、復活のろうそくを朗読台または祭壇の近くにともす。復活節中のより盛大に祝われる祭儀では、ミサのときも朝・晩の祈りのときも復活のろうそくをともす²⁹。

¹⁸ 同 65 参照。

¹⁹ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「聖金曜日」10、『司教儀典書』319、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」66 参照。

²⁰ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」70 参照。

²¹ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「聖金曜日」33、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」71 参照。

²² 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「聖土曜日」1、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」73 参照。

²³ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」73、「教会の祈りの総則」210 参照。

²⁴ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「復活徹夜祭」2、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」94 参照。

²⁵ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「復活徹夜祭」20、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」85 参照。

²⁶ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「復活徹夜祭」21、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」85 参照。

²⁷ 典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」95 参照。

²⁸ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「復活徹夜祭」64、『成人のキリスト教入信式』135 頁参照。

²⁹ 『ローマ・ミサ典礼書（規範版第3版）』「復活徹夜祭」70、典礼省書簡「復活祭の準備と祭儀について」99 参照。